

# 金融機関との電気料金振込データ伝送システムの開発

〈他社コンピュータとのデータ伝送〉

情報システム部 設備計画課

現在、当社は金融機関との間で電気料金振込データ等の授受を、トラック便を利用した磁気テープ交換で行っている。今回、通信の自由化、伝送手順の標準化等データ伝送の環境が整ってきたので、データ交換の迅速化、高信頼度化を一層図るため、日本電信電話㈱の通信回線（DDX回線交換網）を利用したデータ交換システムを開発し、東海銀行との間で試行を開始した。

## 1 開発の背景

### (1) データ交換の必要性（当社の受取の例）

お客様が電気料金を金融機関に振り込んだ場合、その振込データは当社へ転送され、当社では、振込データの確認をする。また、営業所においては、お客様の問い合わせに対し、汎用計算機の振込データを検索すれば、正確な対応ができる。

### (2) データ交換システムの現状

現在、金融機関からの振込データは、磁気テープをトラック輸送し、当社汎用計算機へ転送している。

しかし、現状システムは、次の問題がある。

- ア 振込データの到着に時間がかかる。
- イ 磁気テープ輸送中のトラブルが発生した場合、対処に時間がかかる。
- ウ 磁気テープ（約 110 本／日）の受取作業、交換作業が多い。

## 2 開発システムの概要

このシステムは金融機関別、業務別にデータの授受状況を常時管理している。従って、オペレータは任意の金融機関、業務を画面に表示させ、必

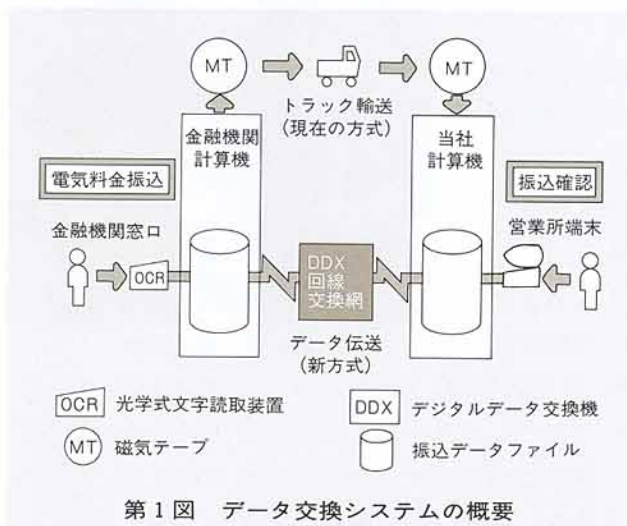
要な指令をすることにより、データ交換処理ができる。具体的な指令は、集信、配信、中断／再開打切等のコマンドを画面の指令欄に入力することにより行う。処理中に状態表示コマンドを入力すれば、実行状態が画面に表示される。処理の終了時には、画面に結果が表示されるので、常に処理状況を把握できる。

## 3 伝送の具体的な動き

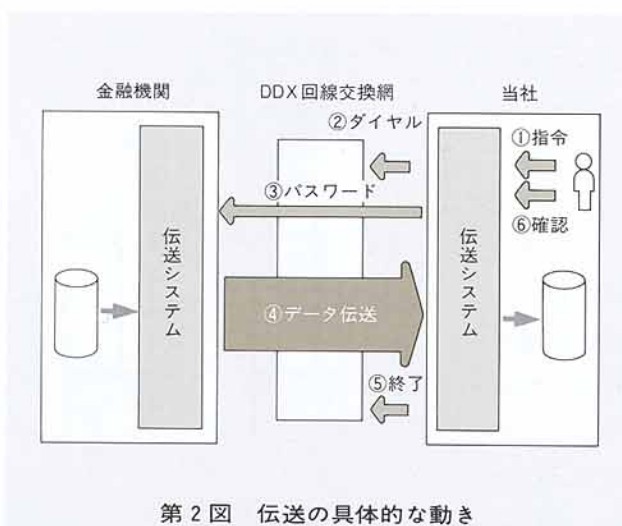
- ① オペレータは、指令画面を利用して伝送システムに処理を依頼する。
- ② 伝送システムは、DDX 回線交換網に対してダイヤリングし、回線を接続する。
- ③ 相手先の確認をパスワードで行う。
- ④ データを送信する。
- ⑤ 回線を解放し、伝送を終了する。
- ⑥ オペレータは指令画面で終了確認をする。

## 4 あとがき

現在、1 金融機関、1 業務について試行しているが、この結果をみて、対象金融機関および対象業務の拡大を図っていくとともに、スケジュールによる伝送の自動化も進めていきたい。



第1図 データ交換システムの概要



第2図 伝送の具体的な動き